

2016年度東北地理学会第1回研究集会
地理教育研究グループ第4回研究集会

テーマ「中学校社会科地理学習の実践的課題を考える」

執筆者：大堀真輝

参加者：15名（大学教員，大学院生，中学校教員，一般ほか）

日時：2016年5月7日（土） 14:00～16:00

場所：宮城教育大学 233 教室（2号館3階）

- 1)オーガナイザー(基調報告) 吉田 剛（宮城教育大学）
テーマ：中学校社会科地理的分野に関わる新たな動き
- 2)実践報告① 高木 美幸（仙台市立加茂中学校）
テーマ：歴史的分野と地理的分野の関連と課題
- 3)実践研究② 尾形 隆寛（仙台市立中田中学校）
テーマ：社会科地理的分野の授業経営の課題
- 4)コメンテーター 西城 潔（宮城教育大学）

概要

本研究集会では中学校社会科地理学習の現状と実践的課題を取り上げた。基調報告に続き、仙台市内の2つの中学校での授業報告とコメント，さらに総合討論という流れで進められた。

オーガナイザーからは，次期指導要領の動きから地理的分野の新たな動きについて報告がなされた。社会科3分野の「見方や考え方」の統一性が見られ，問いを重視した思考力・判断力・表現力の育成が図られることなどについてである。

仙台市立加茂中学校の高木美幸氏による報告①では，同校で行われた歴史学習の内容と課題，地理学習との実践における関連性などが紹介された。社会科を暗記科目としがちな実態を改善するため，歴史的分野からのアプローチと地理的分野からのアプローチの2つについて述べられた。歴史的分野からは題材そのものを扱うのではなく，題材はあくまで手段として扱うことで，ロールプレイなどを通して歴史を身近に感じ取ることができ，事象を読み取る力や関連させる力，表現する力を育成し，生徒自身の主体的な学習へと繋げられることが言及された。地理的分野では動態地誌を重視し，地域間の特色をそのまま捉えさせるのではなく，産業など一つのテーマや軸から他地域との結び付きなどを捉えさせることで，多角的・多面的な視点を育成させることが述べられた。

仙台市立中田中学校の尾形隆寛氏による研究②では，社会科を書き取りや暗記の点から

苦手とする生徒が多く、社会科は好きでも地理を得意とする生徒は少ないという現状を述べ、その対策として如何に分かりやすく、生徒主体の授業を行うことがポイントであると紹介された。指導要領の内容から地域版にアレンジし、地域の実態が捉えられることを強調する一方で、フィールドワークを必須とする地域学習は忌避されがちで、学びが深まらないことについて言及された。

コメントでは、地理的分野は地理的側面だけでなく、地形の形成など歴史的側面とも密接に関わることから、歴史が好きな生徒でも地理的事象に対し動機づけさせやすく、「地歴融合」の観点の必要性が述べられた。その他、総合討論では地理と歴史を関連させることの重要性や、小・中・高での社会科教育の一貫性、一つの観点を時代ごとに見ることで地理と歴史を絡めながら学ぶことの可能性などについての意見が出された。